

会議・視察報告 ■ Conference Reports・Inspection Visits

モントレイ滞在記

ERINA調査研究部研究主任 中島朋義

4月半ばから5月にかけての約1か月間、米国カリフォルニア州に所在するモントレイ国際関係大学院大学 (Monterey Institute of International Studies: MIIS) に、短期客員研究者として滞在した。

モントレイ市はサンフランシスコの南、車で3時間ほどの海岸沿いに位置し、風光明媚な観光地である。市の面するモントレイ湾は豊かな生態系を擁し、国立海洋公園に指定されている。沿岸に近い場所から深くなっている独特の海底地形が、栄養豊かな海水を供給し、ジャイアント・ケルプと呼ばれる大型の海藻の森を繁茂させ、そこに豊富な魚介類、さらにアザラシ、アシカ、ラッコなどの海棲哺乳類が生息している。海岸ではそれらの動物が、驚くほど人間の間近で見られる。また季節によって様々な種類の鯨類が、豊富なえさを求め長距離の移動の途中にモントレイ湾に立ち寄り、

モントレイ市はまた、古い歴史を持つ街であり、1846～48年の米墨戦争によってカリフォルニアが米国領となる以前、メキシコ領カリフォルニアの州都であった。現在もその当時の建築物がいくつか市内に残っている。19世紀後半にはサンフランシスコからの鉄道が開通し、避暑地として開発が進んだ。また第二次世界大戦前はモントレイ湾のイワシを資源とする缶詰加工で栄え、その様子は文豪スタインベックの小説にも残されている。

MIISはこうした自然と歴史に育まれた街に、1955年に創設された。建学の目的としては、国際関係の研究、異文化交流、言語教育を通じて、国際間の相互理解を促進することが謳われている。静かな市街地に校舎が点在するキャンパスには、何か1950年代のアメリカの理想主義の残り香のようなものが感ぜられた。

現在のMIISは修士課程を中心とするこぢんまりとした大学院大学で、約750名の大学院生が学んでいる。開設されている専攻分野としては、建学の起源といえる国際関係研究のコース、国際ビジネスを学ぶMBAコース、語学教育の専門家養成コースなどがある。この他にユニークな専攻として、翻訳・通訳の専門家を養成するコースが開設されている。学内には同時通訳ブースを備えた国際会議用のスペースも設けられており、まさに実践的なトレーニングが実施されている。

語学専攻のコースだけではなく、全ての専攻を通じて語学が重視されており、英語を母国語とする院生の場合は、それ以外の第二言語の習得が入学の条件として義務付けられている。また夏季に開設される各種の語学コースは、全米の他大学にも評判が高い。

MIISには東アジア研究センター (Center for East Asian Studies: CEAS) が設けられており、日本人の赤羽恒夫教授が所長を勤めている。ERINAは同センターの予算によるインターン (研修生) として、2003年から毎年夏季にMIISの院生を受け入れている。今年まで5回、合計7名を受け入れた。これまでのインターンの多くは、日本の外国人英語講師招聘プログラムの経験者など、長期の滞日経験者で日本語に非常に堪能であった。一方ERINAからも、2005年からCEASの短期客員研究者として研究スタッフを派遣している。私はERINAからの三人目の客員研究者としてモントレイに滞在した。

大学は私の宿舎として海岸近くの小さなコテージを一軒用意してくれた。このコテージは前述の鉄道開通直後の1880年代に建てられたもので、地域で最も古い住宅の一つであった。私はそこから毎日、海岸沿いの遊歩道を自転車で30分ほどかけて、アザラシやラッコを眺めながら通勤した。おそらく世界でも屈指の環境豊かな通勤経路である。

MIISのカリキュラムでは5月上旬に学術年度が修了するため、私の滞在期間は学年末と重なることとなった。このため教員も院生も皆大変に多忙で、時間的に研究交流に困難を生ずる場面もあり、この点は若干残念であった。しかし恵まれた環境で、多様な文化的バックグラウンドをもったMIISの教員、院生と触れ合う機会をもてたことは、大変有意義であった。ERINAとMIISの交流については、北東アジア研究と言う共通の目的を踏まえ、今後とも長く継続していきたい。